

ならやまトーク・投句（早春編）

こち

東風を背に佐保へと通う足軽し 小山喜子男

（毎週木曜日、滋賀県草津市から、はるばるならやまへ通う。

八二才の意気込みに、早春の風が背中を押す。ますますお元気で）

朝礼の児童のごと梅蕾

羽尻 嵩

（今朝は寒さが緩む。梅の枝に一段と膨らんだ蕾が並んでいる。朝礼で生徒が整列しているようだな）

梅の香に一輪車止め野良の朝

岡田安弘

（畑へ鋤を運ぶ仲間、脇から漂う梅の香に、思わず足を止める）

春寒や花壇の女性ひとの頬紅し

岡田安弘

（花グループは花壇で作業。風はまだ冷たく女性たちの頬が紅い）

水温む賄いの手の優しさに

青木幸子

（今日は賄の当番。この間まで手が切れるようだった水が、心なしか温んでいるように思える）

チェーンソーの山に響きて春近し

坂東久平

（里山も心なしか色づいてきた。ならやまでは椎茸の楳木づくりに忙しい。チェーンソーの音があちこちから響く）

投句歓迎（古川まで）

誘われて道草するや落の藁

鈴木末一

（田圃道、陽の当たる斜面に覗くフキノトウ。あの頃学校帰り道草してよく叱られた。春の香りにちよつと道草してみるか）

ランドセル背中で踊る新学期

鈴木末一

（「行つてきまーす」新しいランドセルが、背中で踊っている）

季節来たる春子の頭むくむくととき

古川祐司

（一雨ごとの暖かさ。灰色一色だった楳木の棚には春子が一斉に頭を出す。明日の椎茸イベントは晴。「春子」は春の椎茸）

里山に戯むる子らや春の風

八木順一

（椎茸イベントでの山遊び。四十名以上の親子が里山を楽しむ）

里山を親子で植える苗木かな

古川祐司

（コナラの伐採跡に苗木を植えて記念写真。大きく育った木と親子のイメージがオーバーラップする。木を植え、人を植える）

凍尾根にアイゼンの音小気味よき

中井弘

（霧氷の白髭山。凍結した尾根を登る。アイスバーンをアイゼンの刃が小気味よく噛む。その音やよし）